吉阪隆正＋U 研究室

YOSIZAKA Takamasa + Atelier U

DISCONT・LIVE 津山 2025

—私はどこにいるのか、
この疑問がすべての出発点だ

会　期：2025.10.25 sat −11.9 sun
会　場：PORT ART & DESIGN TSUYAMA

吉阪隆正（1917-1980 年）は建築家であり教育者、そしてヒマラヤ K2 をめざす登山家、探検家として地球を駆け巡る文明批評家でもありました。そして、世界文化遺産に選定された〈国立西洋美術館〉を設計したフランスの建築家ル・コルビュジエのもとに吉阪は 1950 年から二年間留学し、帰国後〈吉阪自邸〉〈浦邸〉〈ヴィラ・クゥクゥ〉などの住宅をはじめ〈ベネチア・ビエンナーレ日本館〉〈江津市庁舎〉〈大学セミナー・ハウス〉そして、〈涸沢ヒュッテ〉などの山小屋を設計し、地域計画の提案もしています。また吉阪は数多くの著作も遺し、ル・コルビュジエの『モデュロール』『建築をめざして』などと『ル・コルビュジエ全作品集８巻』を翻訳しました。

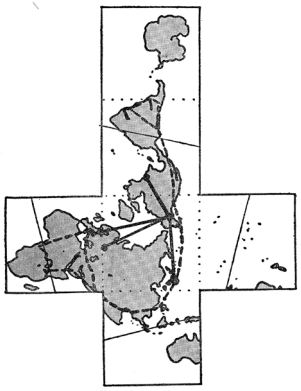
1917 年 2 月 13 日、吉阪は東京小石川竹早町の母方の祖父母の家で誕生しました。母 花子の父は動物学者の箕作佳吉。アメリカに留学して帰国後東京大学理学部、初代動物学教授となった動物学者です。江戸から明治はじめ津山藩医、蘭学者として開国時に活躍した箕作阮甫の孫にあたります。

吉阪も幼少期に世界へ飛び出します。父 俊蔵は国際労働機関開設のために、家族と渡欧。第一次世界大戦後の国際連盟発足時のジュネーブで、世界中から集まった子ども達のための平和教育を受け、国境のない地図を描き多様な生活を学ぶなかで、吉阪は世界平和を達成するための相互理解の手がかりになる建築をこころざしました。そして平和のための〈有形学〉を提唱します。

この度は、吉阪のゆかりの地、津山で〈吉阪隆正＋U 研究室〉を紹介する展覧会を開催することになりました。2016 年に出版を始めた『モダンムーブメントシリーズ 全６巻』と 2022 年には『吉阪隆正パノラ見る』を刊行し、吉阪隆正と U 研究室の活動〈ことば、姿、かたち〉を紹介しています。書籍の出版とこの展覧会の開催にあたり、本当にたくさんの方にお世話になりました。ありがとうございました。

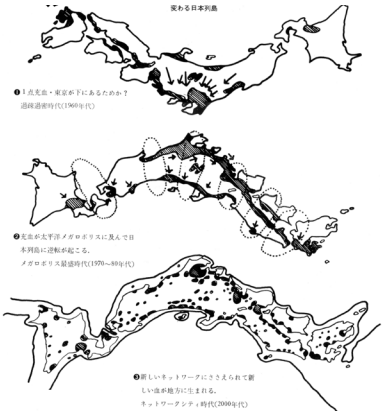
2025 年 10 月

アルキテクト事務局　齊藤祐子

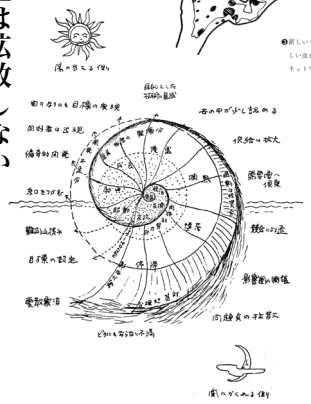


世界平和を達成するためには
お互いが大変違った生活
あるいは価値観の違いというようなものを
持っているのだけれども
それをお互いに理解しあうことから
始めなければならない

いつでも世界を平均に
しかも立体的に
見れるように
且つ平面として
広げてもよい
サイコロ型になる
地図を考えた



命の曼荼羅は拡散しない
また原点へ戻るのだ



好きなものは
やらずにいられない
——生きるか死ぬか生命力を賭けて——

「やらずにはいられない」と「やらざるをえない」とでは、雲泥の差があります。
私は自分の携わる建築学が手放しで好きなのです。

主催：日本建築設計学会
　　津山街デザイン創造研究所
協力：建築資料研究社
共催：アルキテクト事務局
　　北田英治 北田写真事務所
　　齊藤祐子　サイト
　　嶋田幸男　七月工房
　　下田泰也　Echelle-1
　　下山智久　下山設計
　　富田玲子　象設計集団
　　内木博喜　AMS Architects
　　吉阪正邦

ギャラリートーク　**「津山で語る吉阪隆正」**

津山洋学資料館は、吉阪隆正のアトリエ U 研究室から独立した象設計集団が設計を依頼され富田玲子が担当しています。吉阪の母 花子は、津山出身の蘭学者 箕作阮甫の家系です。吉阪は幼少期にスイスで平和教育を受け、1950 年からル・コルビュジエのアトリエに留学後 U 研究室（元 吉阪研究室）を開設しました。U 研究室では、誰もが提案して設計に参加する〈不連続統一体〉を実践し、住宅や学校、公共施設などを設計し、多くの著作、言葉を遺しています。
洋学資料館の設計の構想と、津山に縁の深い吉阪隆正とル・コルビュジエを紹介します。

吉阪隆正　パタパタスケッチ
箕作阮甫　旧宅胸像記念の会 1975.5.24
所蔵：早稲田大学會津八一記念博物館
データ：アルキテクト事務局

日　時：2025.10.25 sat　　14 時～16 時
会　場：PORT ART & DESIGN TSUYAMA

第一部	**吉阪隆正、パノラ見る**	齊藤祐子
	知と情熱のアーカイブ ＝ 洋学資料館	
	～新館設計にあたって	富田玲子
	タカとコル	北田英治
第二部	**吉阪隆正と U 研究室**	富田玲子、北田英治、進行 :齊藤祐子

富田 玲子（とみた・れいこ）象設計集団
1938 年東京都生まれ。1961 年東京大学工学部建築学科卒業。
1963 から 1971 年U研究室所属。<大学セミナー・ハウス、長期研修棟>などを担当。
1971 年に U 研究室の仲間である樋口裕康、大竹康市らと象設計集団を設立。
住宅のほか、学校や文化・公共施設等の設計に携わり、現在に至る。
著書に「小さな建築」（みすず書房）、訳書にケヴィン・リンチ「都市のイメージ」（丹下健三との共訳、岩波書店）

北田 英治（きただ・えいじ）　北田写真事務所　写真家
1950 年鳥取県生まれ。1970 年東京写真短期大学(現東京工芸大学)技術科卒業。
1980 年代から人の暮らしの場所を求めて世界を旅する。
主な著書に『サレジオ』『ル・コルビュジエのインド』　『DISCONT:不連続統一体』『象設計集団:空間に恋して』など。主な写真展に「エッジを歩く」「東チベット紀行」など多数。現在季刊『茶柱探検隊』に〈巷路不錯〉〈ベーハ小屋のある風景〉を連載中。夏目坂写真塾塾長。「ぐるぐるつくる大学セミナー・ハウス」実行委員。

齊藤 祐子（さいとう・ゆうこ）　サイト一級建築士事務所／アルキテクト事務局
1954 年埼玉県生まれ。1977 年早稲田大学理工学部建築学科卒業後、U 研究室入室、〈大学セミナー・ハウス、国際セミナー館〉などを担当。1985 年七月工房、1989 年空間工房 101 を共同設立、1995 年サイトー級建築士事務所設立。作品に〈大学セミナー・ハウスやまゆり〉〈浦和実業学園 UJ ホール〉ほか住宅など多数。主な著書に『吉阪隆正の方法』『集まって住む終の住処』ほか。「ぐるぐるつくる大学セミナー・ハウス」実行委員。「アルキテクト」事務局として、吉阪隆正の関連書籍編集、展覧会企画協力などを行う。